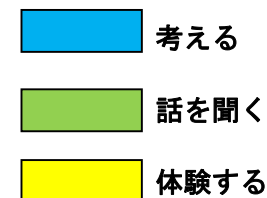


6年社会 博物館体験プログラム「貴族の暮らし」を取り入れた授業実践例

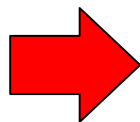
～学習の流れ～



【活動1】これまでの学習をふりかえる。

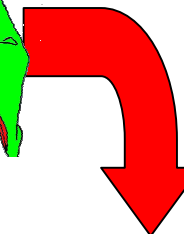
- ・聖徳太子・中大兄皇子・中臣鎌足らの活躍により、天皇中心の世の中が成立したこと。
- ・聖武天皇が行基の協力により大仏を造営したこと。
- ・鑑真のように中国の進んだ文化を日本にもたらした人たちがいたこと。

※大陸（中国）文化の影響を確認し、日本風の文化につなげていく。



【活動2】男性貴族の服装（束帯と狩衣）について解説をきく。

- ・聖武天皇以降の世の中の様子を知る手掛かりとして、当時の貴族の衣服を紹介する。
- ・飾られた束帯や束帯姿の写真と平安以前の貴族の服装の写真を比較させる。
- ・狩衣を着た代表児童に登場してもらい、着付け体験への興味を高める。



【活動3】十二単の着付け体験を行う。

☆ 代表者への着付け。

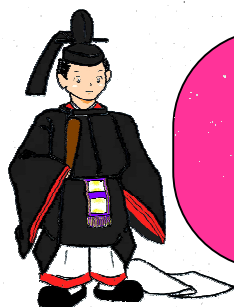
- ・十二単（1名：大きい子）事前を選び出しておく

☆ 十二単の解説を聞く。

- ・貴族の暮らしについて
 - ・竹取物語のかぐや姫
 - ・ひなまつりのひな人形
- かな文字・文学
年中行事への興味

【本時の使用資料】

十二単一式・束帯一式・狩衣一式・食事のパネル・貴族の屋敷パネル・PCデータ



＝本時のねらい＝

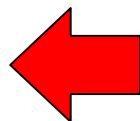
- 大陸文化とは違う新たな文化が発生した点に気づかせる。
- 貴族の生活の一部にふれることで、平安時代の文化への興味を高め、今後の調べ学習の視点をつかませる。

【活動5】 まとめのお話

☆ 奈良時代までの女性貴族の衣装も紹介、比較させ、服装の変化に気付かせる。

- ・十二単の方が今の着物に近い …など

※服装の変化から日本風の文化が生まれたことにつなげる伏線とする一方、着付けの解説時に使用した資料を再度紹介することにより、服装以外の変化にも着目させ、文学や年中行事など平安文化について調べる際の視点をつかませるようにする。



【活動4】十二単・狩衣を羽織る。

☆ 着心地、動きやすさなど、体験を通して貴族の暮らしのイメージをつかませる。

- ・男女を問わず衣服を羽織るように促す。
- ・靴、杓、冠など、附属品にも触れさせる。

※体験中、貴族の暮らしについて児童からの質疑にも応じるようにする。次時以降の調べ学習に深くかかわる部分については、児童自らが調べるように促し、簡単な解説にとどめる。



実施時期：6月上旬～中旬

※平安文化の学習の導入として実施

大鑑の活動と組み合わせ、平安時代の復習と鎌倉時代の導入を一緒に行うことも可能。



6年社会 博物館体験プログラム「武士と鎧」を取り入れた授業実践例 ～学習の流れ～

- 考える
- 話を聞く
- 体験する

【活動1】

大鎧と当世具足を見くらべ、新旧を予想する。

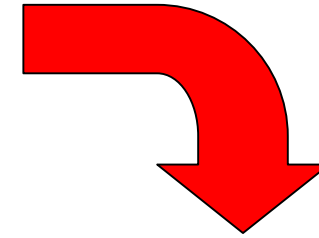
☆ 予想の根拠があれば発表させる。

- ・色、装飾、つくりなどの見た目
- ・教科書の絵巻物、屏風絵に描かれた武士のいでたちを思い出して …など

【活動2】

鎧の使用時期について資料をもとに考え、補足解説をきく。

- ・武士の成り立ち（解説）
- ・合戦の絵巻物をもとに大鎧の使用時期を考える。
- ・三つ葉葵の家紋をもとに当世具足の使用時期を考える。
- ・大鎧が使われた時期の絵画資料と当世具足が使われた時期の絵画資料をもとに、戦い方の違いと装備の違いの関連性に気付かせる。



＝本時のねらい＝

- 既習の武士の世（平安末～安土桃山）について、博物館の資料（大鎧・当世具足とそれに関わる装備品）を見たり、触れたり、解説を聞いたりしながら、理解を深める。
- 体験活動や解説を通して、その後の江戸幕府による治世に興味をもたせ、調べ学習への意欲を高める。



【本時の使用資料】

大鎧・当世具足・弓矢
(弓・矢・鏑矢)・太刀・
火縄銃・PCデータ

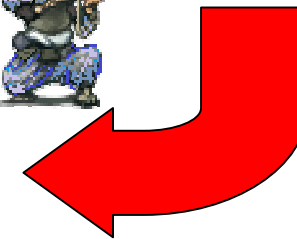


【活動4】 まとめの話

- ☆ このような鎧をきた武士が活躍した戦国時代も信長・秀吉・家康の活躍で終焉に向かったことを確認する。
- ・秀吉、家康と栃木の関連も紹介
- ☆ 江戸幕府の治世につながる課題を示してまとめとする。

【活動3】 鎧の着付け体験を行う。

- ☆ 代表者への着付け。
- ・当世具足（1名：大きい子） 事前に
- ・大鎧（1名：小さい子） 選び出しておく
- ☆ 鎧の解説を聞く。
- ・鎧の部品や特徴 ・装備品（火縄銃等）との関連
- ☆ 兜や装備品で体感させる。



実施時期：9月上旬（夏休み明け直後）

※夏休み前の学習の復習と夏休み後の学習の導入を兼ねて実施

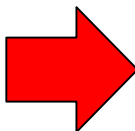
一部資料を入れ替えて、平安末～鎌倉時代の学習、信長・秀吉・家康の時代の学習での実施も可。

3年社会 博物館体験プログラム「昔をしらべる」を取り入れた授業実践例 ～学習の流れ～

【活動1】デジタル機器の音と蓄音機の音を聴き比べ、昔の道具に対する関心を高める。(約15分)

- ・デジタル機器（CD等）を音源とした曲を聴く。
- ・蓄音機を音源とした曲を聴く。
- ・両者の音の違いを感じ取らせる。
- ・蓄音機用のSP盤とCDディスクの大きさや重さの違いを体感する。

※今の道具と昔の道具を比べ、使用目的が同じでも、道具そのものはもちろん、その性能の変化にも気付かせる。



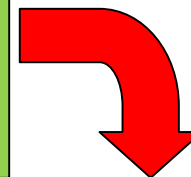
【活動2】昔の食事について解説する。(約5分)

- ☆ 水と調理の話。
 - ☆ 食事スタイル（お膳、片付け）の話。
- ※電化製品が一般的でない時代、調理や食事の話から水の大切さを意識させる。

話を聞く

体験・見学

考える



【活動3】生活に欠かせない“水”を確保する方法について解説を聞いた後、体験活動を行う。(約25分)

- ・井戸の話（手押しポンプと天秤棒・水桶の話、水がめの話）
- ・天秤棒・水桶体験

※水道の無い時代、生きるためには水の確保は大切な仕事であった。実際に水を入れた状態の天秤棒を担ぐことで、その仕事の大変さを知る。その上で、道具の改良やそれに伴う生活の変化の話につなげる。
また、水汲みは子供の仕事だったことにも触れ、昔は家族が協力しあって暮らしていたことも理解させる。
※子供の仕事の話から、次の石臼の話につなげる。

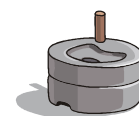
途中休憩

【活動4】石臼体験と資料見学(約3分)

- ☆ 再集合後、資料の見方についての諸注意をし、体験Gと資料見学Gに分かれて活動する。

【G①活動4】石臼の解説を聞きながら、黄粉づくり体験を行う。

※体験の諸注意を最初にする。石臼を挽いている最中の児童の指導は担任も行う。
※体験終了後、石臼の解説と共に黄粉の香りの良さや手触りを体感させ、石臼が今でも使われる理由を考えさせる。
(昔の道具のよいところは、今の道具にも生きている)



【G②活動4】その他の展示資料を見学する。

※貸出資料として用意されたさまざまな昔の道具を見学（触れるものは触り）する。
(資料見学は、担任の先生が指導。G①の活動の合間に見学Gに解説を簡単に行う。)
※G①・②ともに活動④が終了したら、児童の疑問に答える。



途中で交代(活動時間:各15分=約30分)

【本時の使用資料】

蓄音器一式、CD、テープレコーダー、石臼一式、天秤棒・水桶、手押しポンプ、その他

＝本時のねらい＝

- 昔の道具に秘められた先人の知恵に気付かせる。(まとめ①)
- 効率性や利便性などを求める人々の願いや思いの中、道具の改良が進み現在の使われている道具ができたことを理解させる。(まとめ②)
- 道具の改良が進んだ結果、今の私たちの生活があることに気付かせる。

実施時期：12月～2月中旬
※ 単元の導入・調べ学習・まとめの各時期に授業の目的に合わせて実施。活用資料や解説内容はその都度変更。

【活動4】 まとめ話

①昔の道具には、姿を変えずに使われ続ける道具や失われてしまった道具がある。また技術の進歩により、昔の道具のよい所を再現する努力もされている。

例) お釜・かまど→電気釜の“かまど炊き”など

②人々は、生活をよりよいものとするために、いろいろな道具の改良を行った。
(※昔の道具は使ってみると大変なものが多いが、その当時では最も良い道具だったために使われていた。)
→道具の変化は生活の変化をもたらし、今の私たちの生活につながってきた。

